

令和3年度「子どもの生活状況調査」について（報告）

1. 調査の目的

北九州市における、子どもの貧困対策を進めるに当たっての課題や施策の効果等を確認するための基礎資料を得ることを目的に実施するもの。

※ 本市では平成28年度に独自の調査を実施したが、今回は、国が全国的な調査に向けて示した共通調査項目案をもとに本市で実施する初めての調査。

2. 調査対象及び世帯数・回収結果

(1) 調査対象：市内在住の中学2年生がいる世帯の「保護者」「中学2年生」

(2) 世帯数・回収結果

住民基本台帳上から中学2年生がいる世帯5,000世帯を無作為抽出。

各世帯に「保護者票」「中学生票」を送付

	配布世帯	
	保護者	中学生
配付数	5,000	
回収数	2,104	2,000
回収率	42.1%	40.0%

3. 調査基準日・期日

(1) 調査基準日：令和3年11月1日

(2) 調査期日：令和3年11月1日～12月15日

4. 調査項目

保護者票	中学生票
1. 経済的な状況、暮らしの状況	1. 学習の状況
2. 就労の状況	2. 進学希望
3. 保育の状況	3. 部活動等への参加状況
4. 子どもとの関わり方	4. 日常的な生活の状況
5. 学校との関わり方・参加	5. 子どもの心理的な状態
6. 進学期待・展望	6. 逆境体験
7. 頼れる人の有無・相手	7. 新型コロナウイルス感染症の影響
8. 保護者の心理的な状況	8. 支援の利用状況や効果等
9. 新型コロナウイルス感染症の影響	
10. 支援の利用状況や効果等	

5. 分析方法

「世帯収入の水準」や「親の婚姻状況」によって、子どもの学習・生活・心理などの面に影響しているかを比較するため、以下の区分別に分析した。

(1) 世帯収入は次の3つに区分

○中央値以上

○中央値の2分の1以上中央値未満（収入が中低位の水準の世帯）

○中央値の2分の1未満（収入が最も低い水準の世帯）

(2) 親の婚姻状況は次の3つに区分

○ふたり親世帯、○ひとり親世帯、○ひとり親世帯(母子世帯)

6. 調査結果の主なポイント

「収入が低い水準の世帯やひとり親世帯」が、親子ともに多くの困難や課題を抱えているリスクがあることや、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、生活状況がさらに厳しくなっている可能性がある。

【「収入が低い水準やひとり親の世帯」の保護者の状況】

○現在の暮らしの状況について「苦しい」又は「大変苦しい」の割合が全体の2倍以上。

○「食料が買えなかった経験」等が生じている割合が高い。

○子どもの将来の進学希望に関して、「大学またはそれ以上」と回答した割合が低い。

○「高校まで」と考える理由として、「家庭の経済的な状況から考えて」と回答した割合が高い。

○「いざというときに頼れる人がいない」と回答した割合が高い。

○「うつ・不安障害相当」の心理的な状況にある保護者の割合が高い。

○コロナの影響により、「世帯全体の収入の変化」について「減った」と回答した割合が高い。

【「収入が低い水準やひとり親の世帯」の子どもの状況】

○クラス中での成績について、「やや下のほう」、「下のほう」と回答した割合、学校の授業について「わからないことが多い」、「ほとんどわからない」と回答した割合が高い。

○進学したいと思う教育段階について、「大学またはそれ以上」と回答した割合が低い。

○部活動等に参加していない割合が高い。

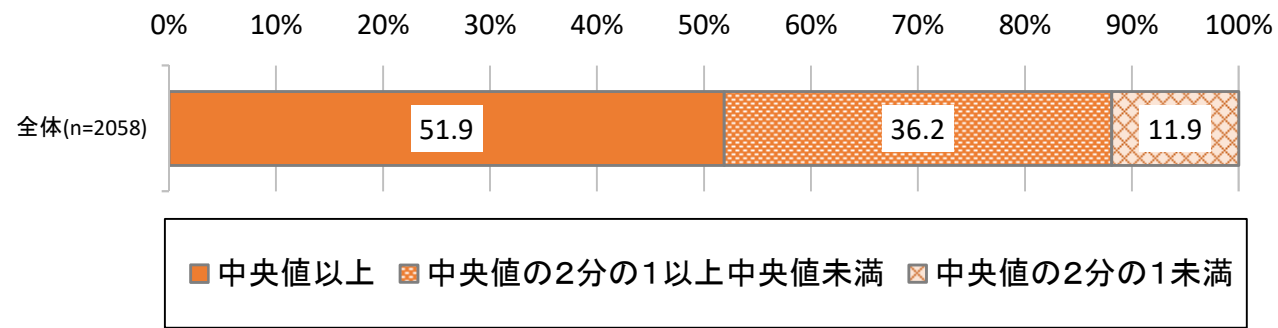
○生活満足度が低い。

○「暴力を受けた経験がある」など「逆境体験」を経験している割合が高い。

○コロナの影響により、「学校の授業がわからないと感じること」について「増えた」と回答した割合が高い。

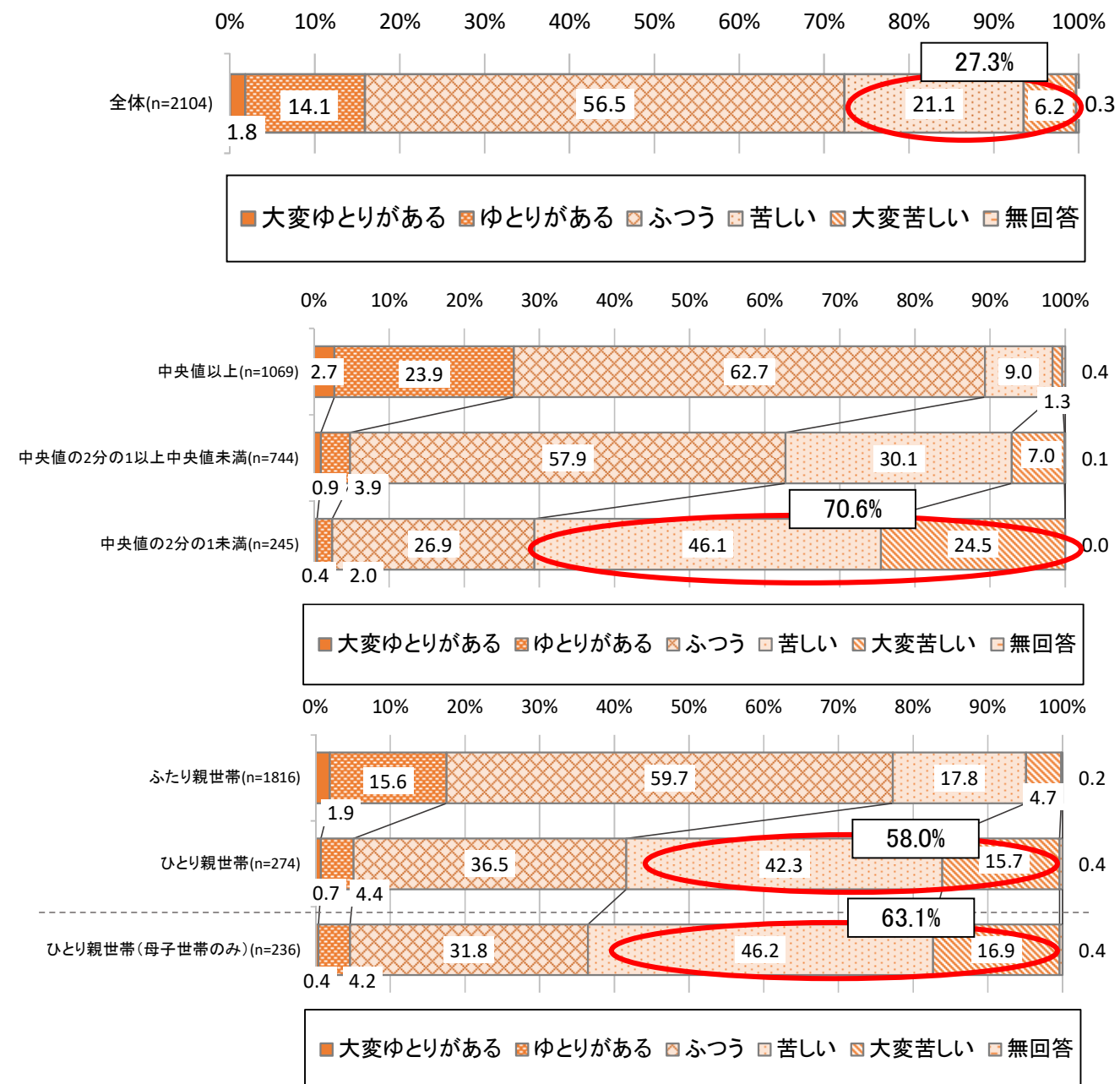
1 世帯収入の水準

世帯収入の水準が「中央値の2分の1未満」に該当するのは11.9%であった。
 「中央値の2分の1以上中央値未満」に該当するのは36.2%、中央値以上は51.9%であった。



2 現在の暮らしの状況

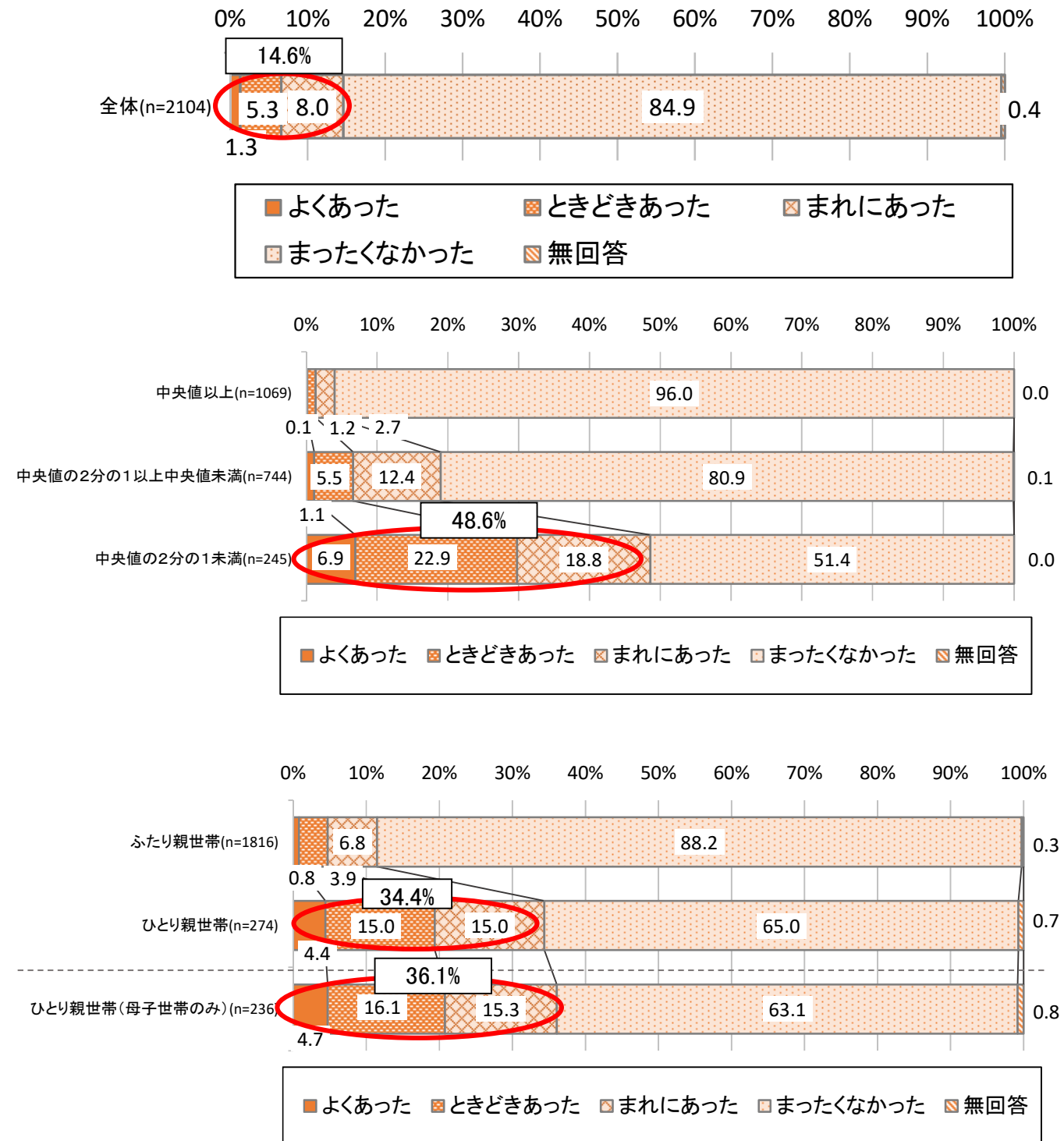
現在の暮らしについて、「苦しい」又は「大変苦しい」と回答した割合は、全体の27.3%に対し、「中央値の2分の1未満」の世帯では70.6%、「ひとり親世帯」全体では58.0%、「母子世帯」のみでは63.1%であった。



3 食料等が買えなかった経験

食料が買えなかった経験が「あった」とする割合は、全体の14.6%に対し、「中央値の2分の1未満」の世帯では48.6%、「ひとり親世帯」全体では34.4%、「母子世帯」のみでは36.1%であった。

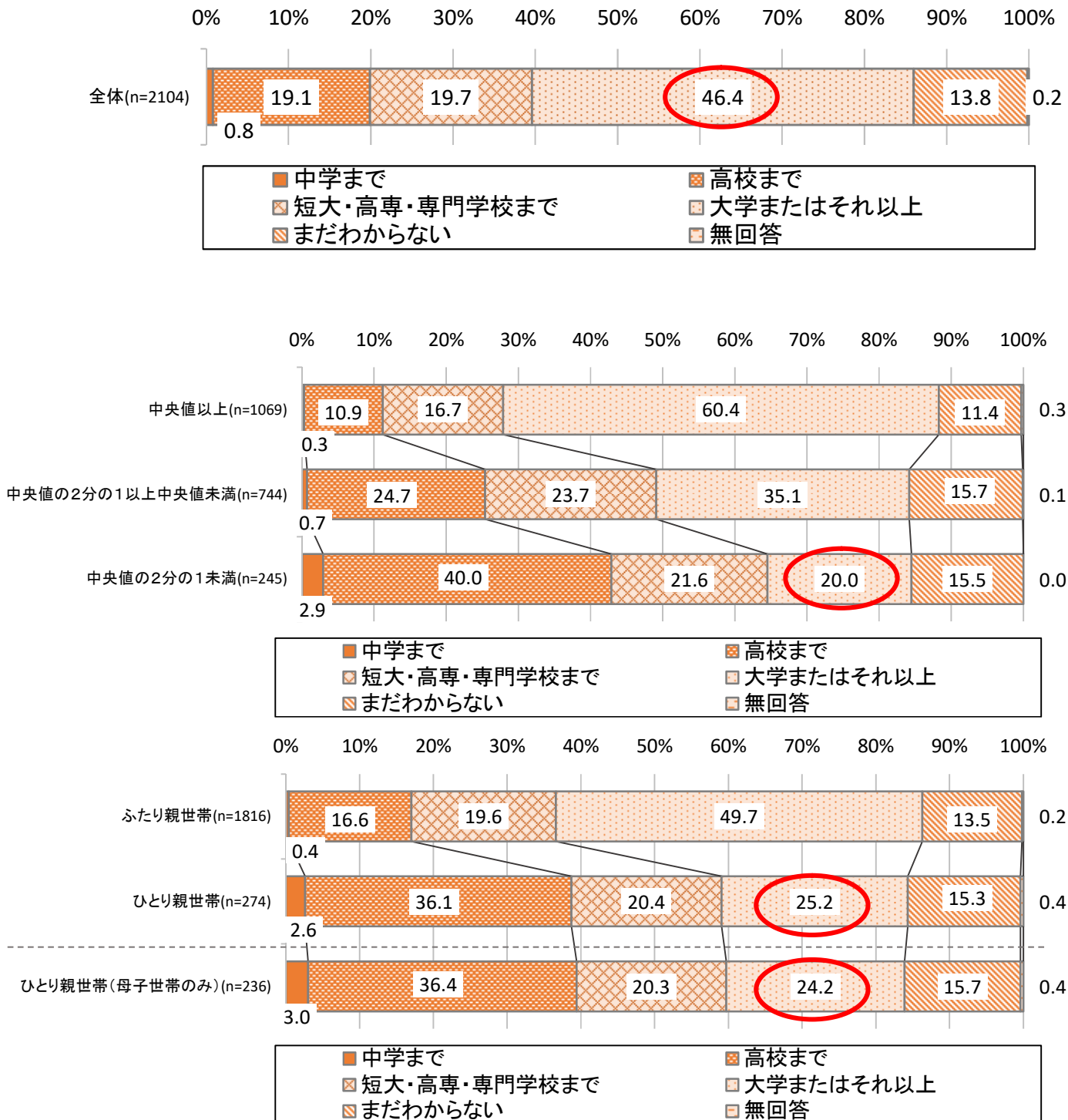
また、電気料金、ガス料金、水道料金のいずれか1つ以上で未払いが発生している割合は、全体の5.1%に対し、「中央値の2分の1未満」の世帯では19.6%、「ひとり親世帯」全体では11.7%、「母子世帯」のみでは12.7%であった。



4 子どもの将来の進学希望

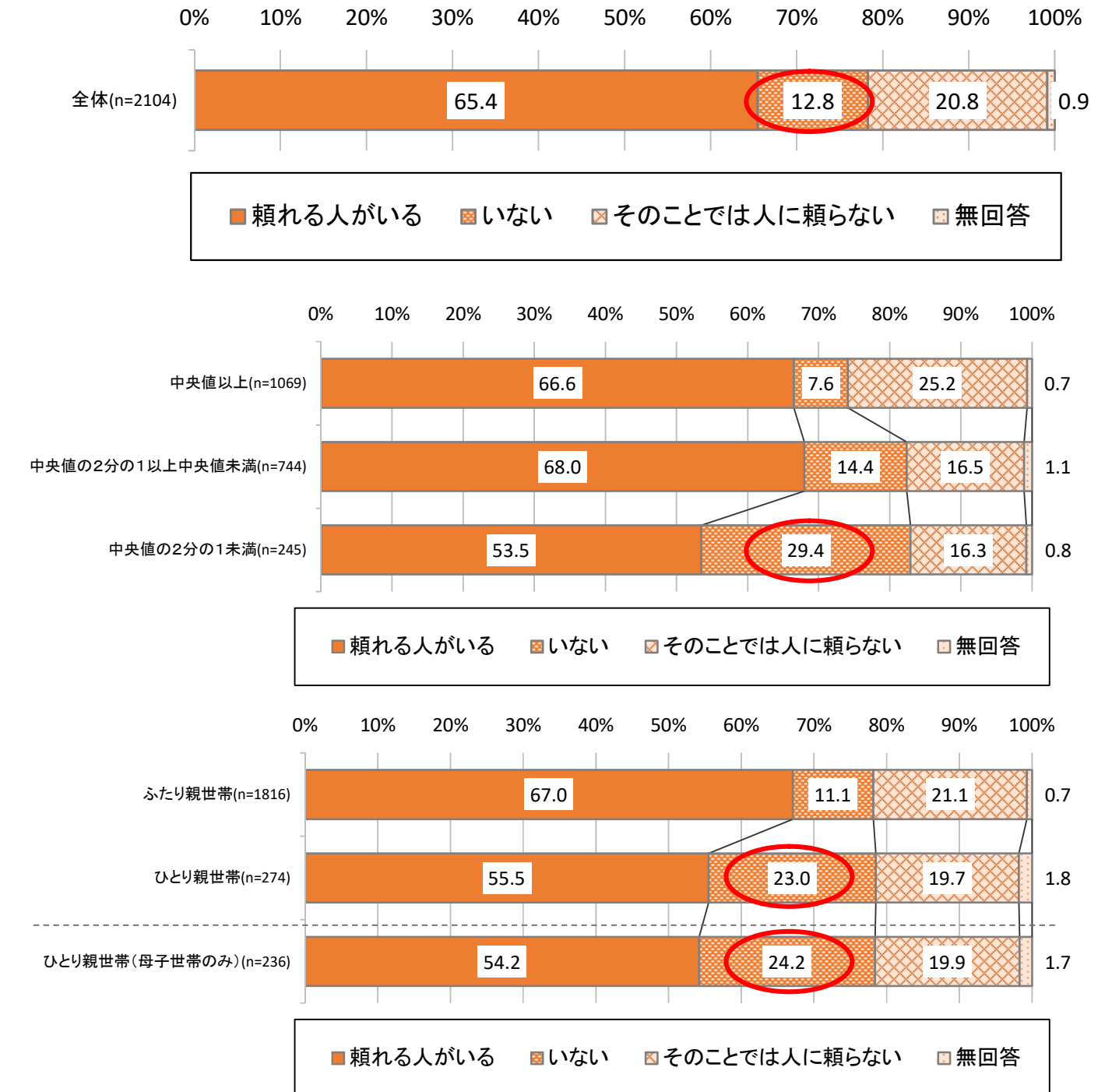
子どもの将来の進学希望として、「大学またはそれ以上」と回答した割合は、全体の46.4%に対し、「中央値の2分の1未満」の世帯では20.0%、「ひとり親世帯」全体では25.2%、「母子世帯」のみは24.2%であった。

また、「高校まで」と考える理由として「家庭の経済的な状況から考えて」と回答した割合は、全体の29.9%に対し、「中央値の2分の1未満」の世帯では42.9%、「ひとり親世帯」全体では48.5%、「母子世帯」のみは50.0%であった。



5 いざというときに頼れる人

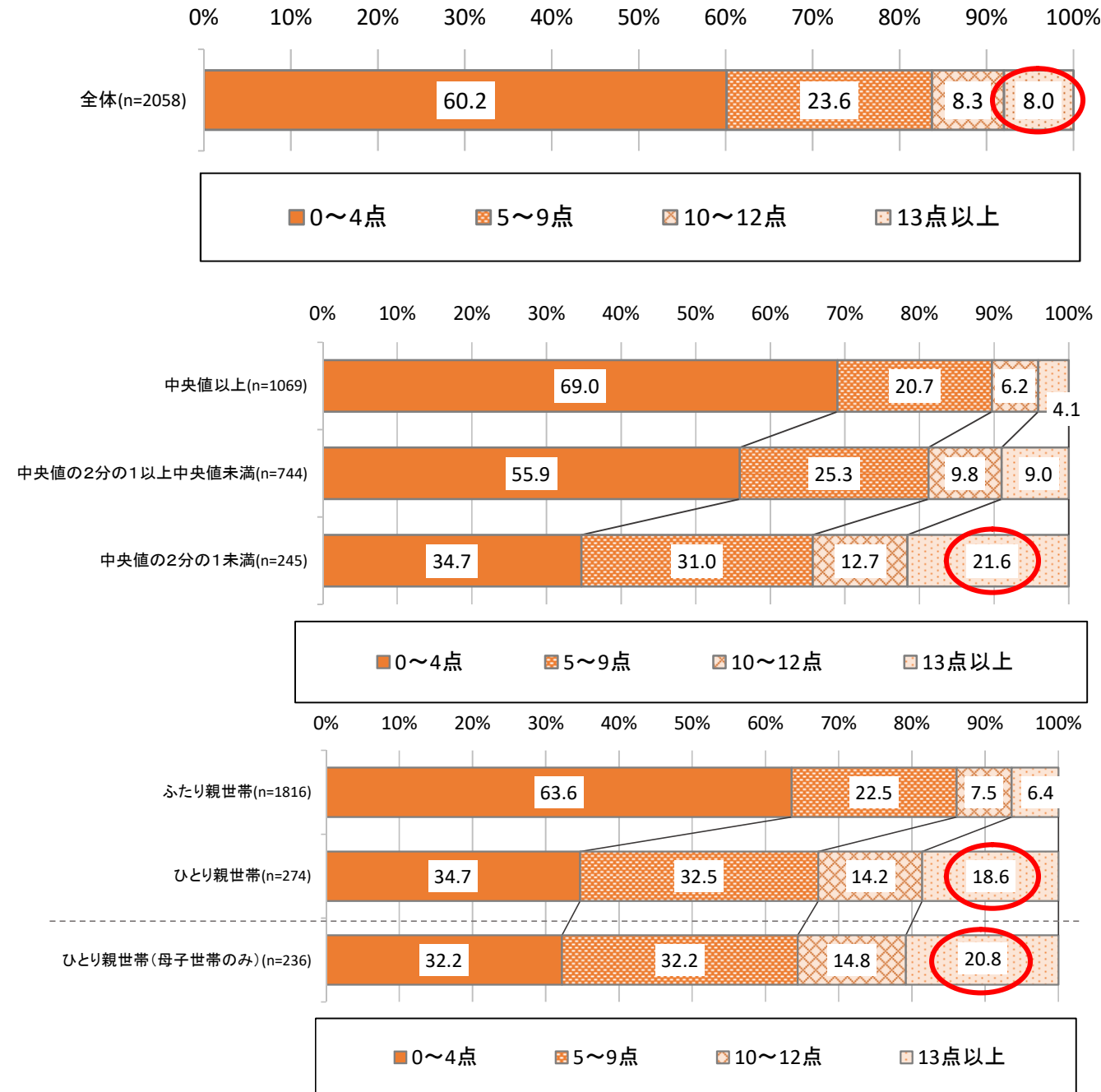
「いざというときのお金の援助に関して頼れる人」について、「いない」の割合は、全体の12.8%に対し、「中央値の2分の1未満」の世帯では29.4%、「ひとり親世帯」全体では23.0%、「母子世帯」のみは24.2%であった。



6 保護者の心理的な状態

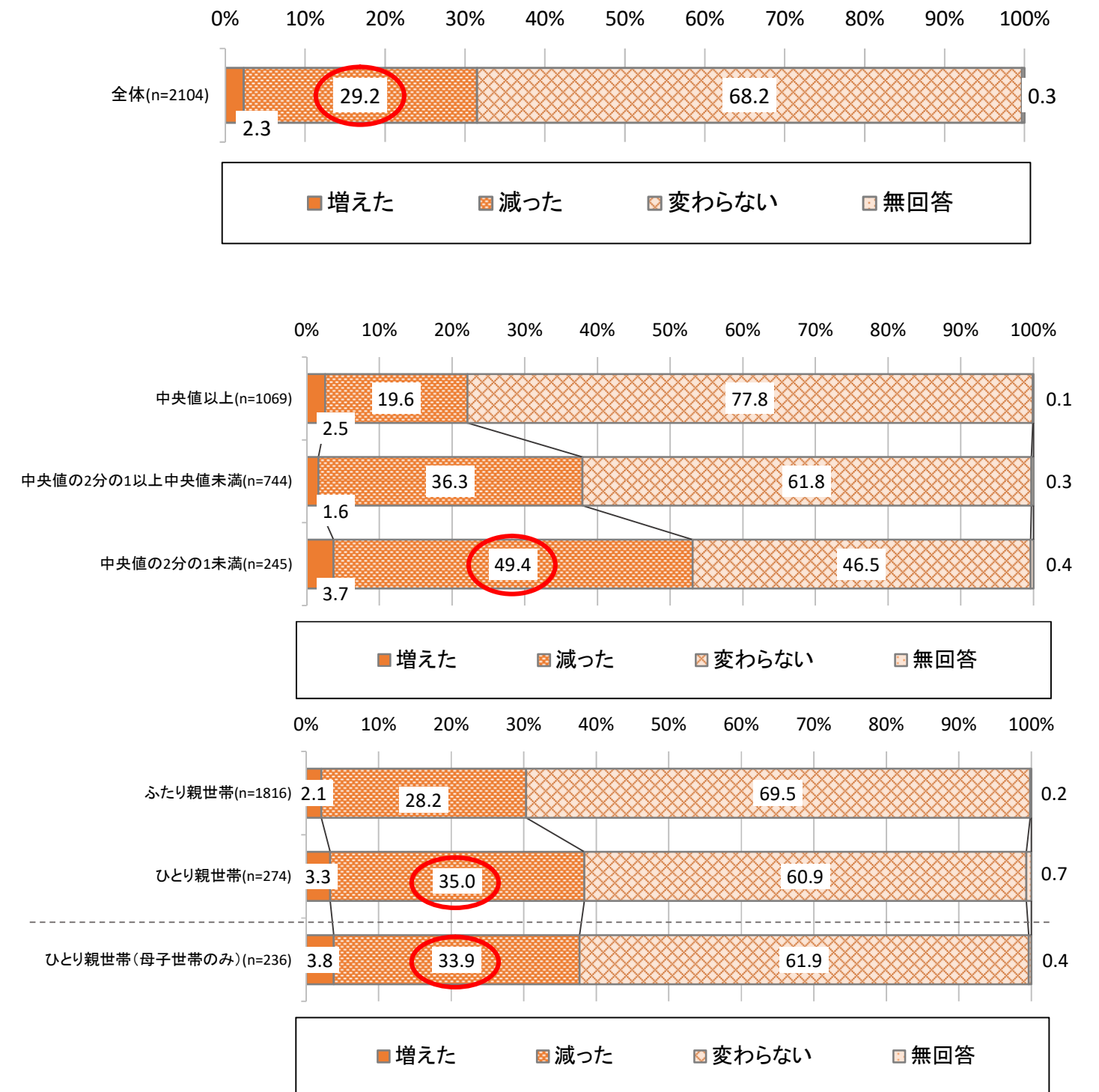
「保護者の心理的な状態」に関して、調査では指標として、「絶望的だと感じた」など6つの項目を設定し、この6つの調査項目の結果を足し合わせてスコアを算出（0～24点）したところ、「うつ・不安障害相当」とされている「13点以上」の割合は全体では8.0%であった。

これに対して、「中央値の2分の1未満」の世帯では21.6%、「ひとり親世帯」では18.6%、「母子世帯」のみでは20.8%であった。



7 新型コロナウイルス感染症の影響

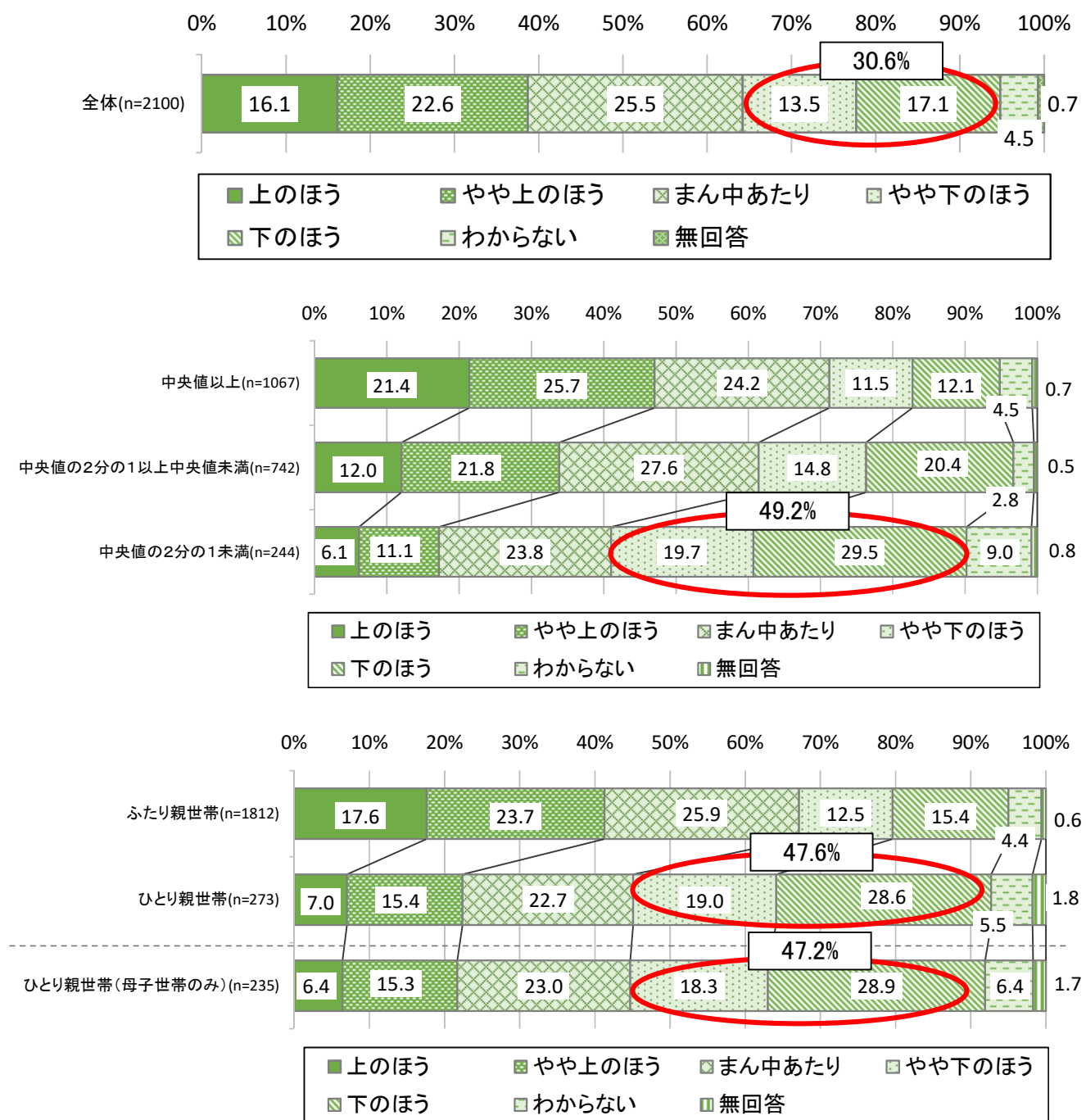
「世帯全体の収入の変化」について、「減った」と回答した割合は、全体の29.2%に対し、「中央値の2分の1未満」の世帯では49.4%、「ひとり親世帯」では35.0%、「母子世帯」のみでは33.9%であった。



1 学習の状況(クラス中での成績、学校の授業の理解度)

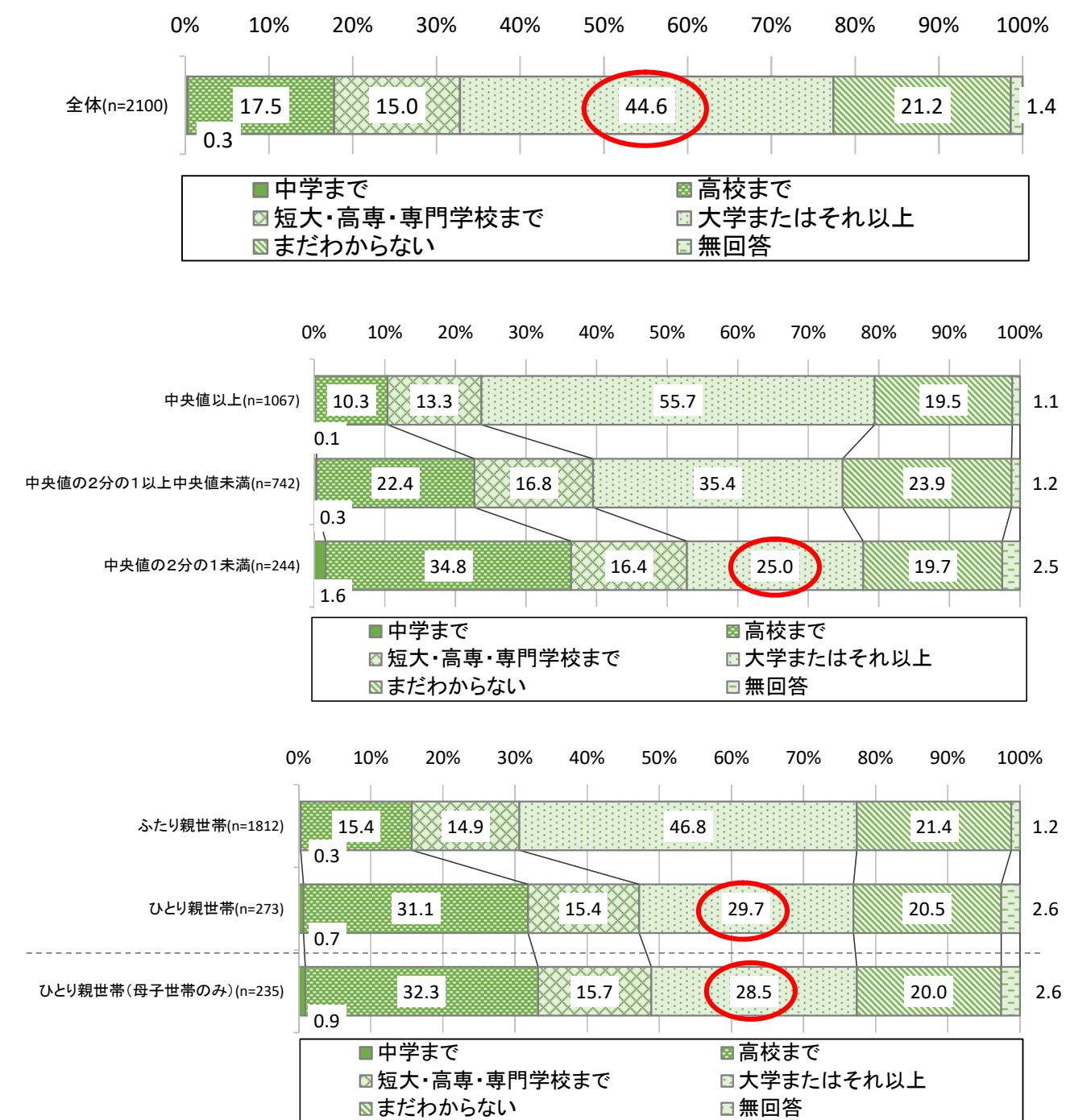
クラス中での成績について、「やや下のほう」と「下のほう」を合わせた割合は、全体の30.6%に対し、「中央値の2分の1未満」の世帯で49.2%、「ひとり親世帯」全体では47.6%、「母子世帯」のみでは47.2%であった。

また、学校の授業について、「わからないことが多い」と「ほとんどわからない」を合わせた割合は、全体の13.3%に対し、「中央値の2分の1未満」の世帯で28.7%、「ひとり親世帯」全体では29.7%、「母子世帯」のみでは29.8%であった。



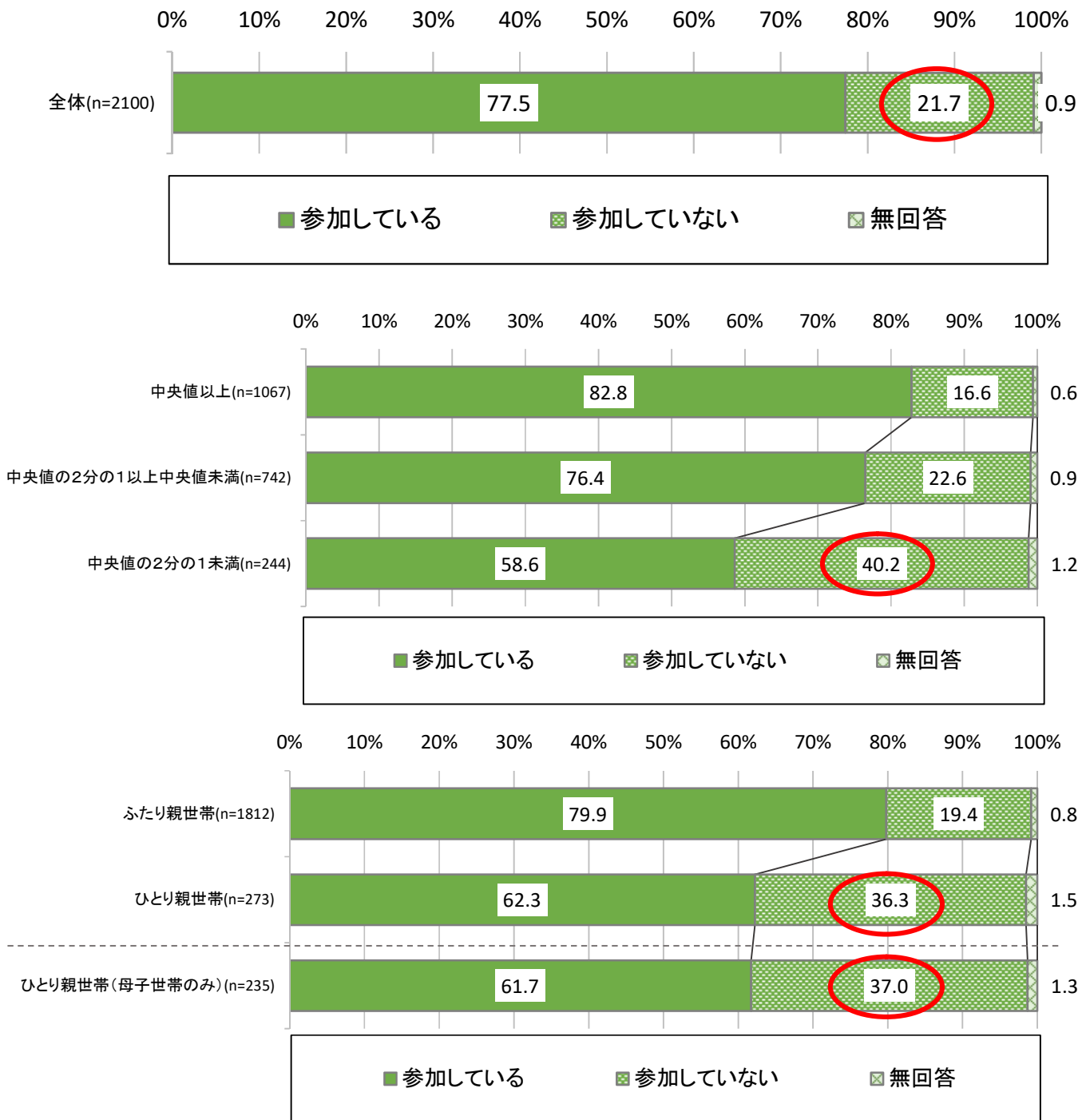
2 進学したいと思う教育段階

進学したいと思う教育段階について、「大学またはそれ以上」と回答した割合は、全体の44.6%に対し、「中央値の2分の1未満」の世帯で25.0%、「ひとり親世帯」全体では29.7%、「母子世帯」のみでは28.5%であった。



3 部活動等の参加状況

部活動等に「参加していない」と回答した割合は、全体の21.7%に対し、「中央値の2分の1未満」の世帯で40.2%、「ひとり親世帯」全体では36.3%、「母子世帯」のみでは37.0%であった。



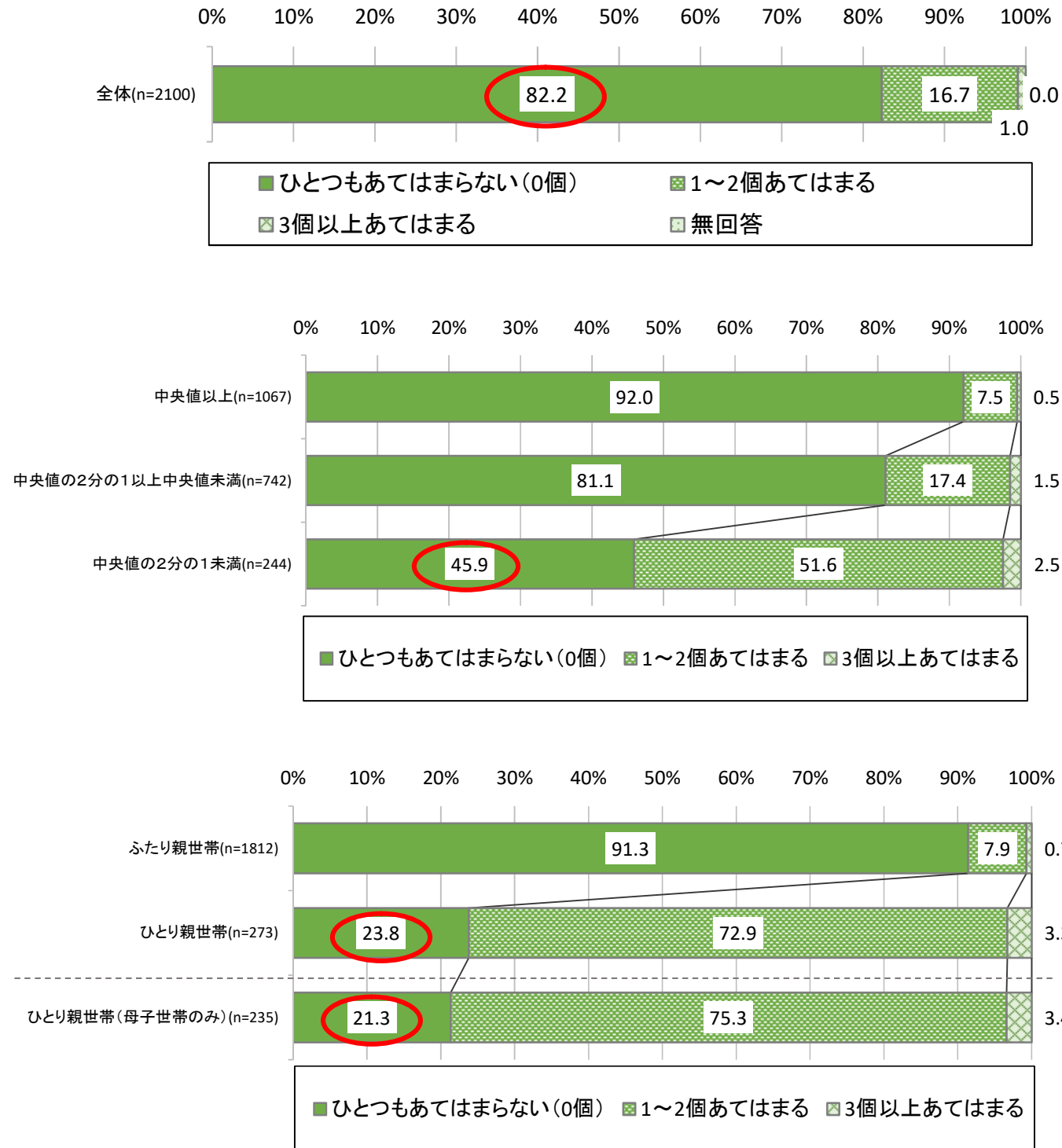
4 生活満足度

「まったく満足していない：0」から「十分に満足している：10」の11段階で回答を得た生活満足度について、「6～10」（満足度が高い方の回答）に該当する割合は、全体の72.0%に対し、「中央値の2分の1未満」の世帯で61.9%、「ひとり親世帯」全体では57.1%、「母子世帯」のみでは55.4%であった。



5 逆境体験

両親の離婚や暴力を受けた経験があるなどの「逆境体験」に関して設定した8項目について、「ひとつもあてはまらない(0個)」と回答した割合は、全体の82.2%に対し、「中央値の2分の1未満」の世帯で45.9%、「ひとり親世帯」全体では23.8%、「母子世帯」のみでは21.3%であった。



6 新型コロナウイルス感染症の影響

新型コロナウイルス感染症の拡大による変化として、「学校の授業がわからないと感じること」について「増えた」と回答した割合は、全体の26.1%に対し、「中央値の2分の1未満」の世帯で43.4%、「ひとり親世帯」全体では36.3%、「母子世帯」のみでは38.3%であった。

